

Title	在宅医療・介護における保険薬局に対する医薬品卸の役割
Sub Title	
Author	橋本, 三尚(Hashimoto, Mitsunao) 中村, 洋(Nakamura, Hiroshi)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2012
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2012年度経営学 第2786号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002012-2786

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程

学位論文（ 2012 年度）

論文題名

在宅医療・介護における保険薬局に対する医薬品卸の役割

主 査	中村 洋 教授
副 査	田中 滋 教授
副 査	井上 哲浩 教授
副 査	青井 倫一 教授（明治大学大学院）

2013年 3月 1日 提出

学籍番号	81130833	氏 名	橋本 三尚
------	----------	-----	-------

論文要旨

所属ゼミ	中村洋 研究会	学籍番号	81130833	氏名	橋本 三尚
(論文題名)					
在宅医療・介護における保険薬局に対する医薬品卸の役割					
(内容の要旨)					
<p>日本における在宅医療・介護の普及・充実は重要な課題である。その大きな理由は、患者の自宅で療養したいというニーズが高いこと、都市部を中心とした 75 歳以上の高齢者人口の急増に対応しうる体制を構築しなければならないことである。在宅医療・介護の普及・充実に対する政府の後押しは、都市部だけでなく地方にも同様の影響を与える。</p> <p>在宅医療・介護の推進は、医薬品卸業界にとっても大きな機会である。現在の医薬品卸業界は製薬企業の競争環境激化、医療機関／薬局の大型化・ネットワーク化による購買力の向上、業界内の競争激化等により収益性が極めて低い。しかし、在宅医療・介護に関わることによって医薬品卸の取引先である医療機関／薬局の囲い込みを実現したり、在宅医療・介護で必要な医療材料や介護用品、検査機器などの販売へと展開したりすることにより、収益性を高められる可能性がある。</p> <p>ただ、実際に医薬品卸が在宅医療・介護の充実のために果たせる役割は明確になっていない。そこで、どうすれば医薬品卸が在宅医療・介護を充実させる役割を担うことができるかを、特に在宅医療・介護に関与したくてもできていない保険薬局に着目して考察することが本研究の目的である。</p> <p>研究手法は、文献調査とインタビュー調査により、現状の把握、ニーズの把握、課題の抽出ならびに対応の検討を行う。文献調査では、地域包括ケアシステムを含む在宅医療・介護の政策的意図を中心に調査する。インタビュー調査の対象は、派遣元企業の関わりが強い地域（宮城県）での保険薬局、ケアマネジャー、病院内の地域医療連携室等である。</p> <p>調査から分かったことは次の四点である。第一に、地域包括ケアシステムの中で保険薬局はまだ十分な関与ができていないが、専門職として果たすべき役割はある。第二に、在宅医療・介護において積極的に関与している保険薬局には共通するパターンがある。第三に、保険薬局が在宅医療・介護に関与するには課題も多く、関与の発展段階毎に異なる。第四に、在宅医療・介護に関与したくてもできない保険薬局が抱える課題の一つとして、在宅医療・介護に積極的な医師の発掘があるが、それに対しては在宅医療・介護の疾病領域毎の違いを理解することによって、医薬品卸が支援可能であることも分かった。</p> <p>本論文の限界は、宮城県を中心にインタビューしたために他の地域で同様の結果が得られるか検討できていないこと、過疎地域において在宅医療・介護の充実を如何に実現するかを十分検討できていないことである。</p>					